

令和6年度 第2回 国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会

日 時 令和6年8月29日（木）午前10時30分～

場 所 ひかりプラザ 教育資料室

会 議 次 第

1 教育長挨拶

2 事務局報告

3 正副委員長互選

4 開会

5 報告事項

（1）大型立体地形模型製作業務委託について

資料1

（2）令和7年度工事予定地区の整備について

資料2

（3）塔地区の整備予定の変更について

資料3

（4）史跡地内トイレの改修について

資料4

（5）おたかの道湧水園の今後の在り方について

資料5

6 その他

7 閉会

配布資料一覧

- ・ 令和 6 年度第 2 回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会会議次第
- ・ 令和 6 年度第 1 回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会議事録
- ・ 委員名簿
- ・ 『歴史公園ガイドブック』 Ver. 6

資料 1-1	大型立体地形模型製作業務委託について
資料 1-2	大型立体地形模型垂直比率
資料 1-3	大型立体地形模型イメージ図
資料 1-4	解説パネル内容
資料 1-5	解説パネルレイアウト図
資料 1-6	模型地図範囲と配色
資料 2	令和 7 年度工事予定地区の整備について
資料 3	史跡保存整備事業計画
資料 4	トイレ改修用地測量図
資料 5	おたかの道湧水園の今後の在り方について

国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会委員名簿

任 期：令和6年7月8日から令和8年7月7日まで

No.	氏 名	住 所	委員区分	略歴等	備考
1	くぼ た ひさし 久保田 尚	ふじみ野市	(1)号委員	埼玉大学名誉教授 日本大学客員教授 (交通計画)	再任
2	さかい きよじ 酒井 清治	松戸市	(1)号委員	駒澤大学名誉教授 (考古学)	再任
3	さとう まこと 佐藤 信	港区	(1)号委員	東京大学名誉教授 (古代史学)	再任
4	すずき まこと 鈴木 誠	足立区	(1)号委員	東京農業大学グリーンアカデミー校長 東京農業大学名誉教授 (造園学)	再任
5	のざわ やすし 野澤 康	新宿区	(1)号委員	工学院大学建築学部まちづくり学科教授 (都市計画)	再任
6	ふじい けいすけ 藤井 恵介	杉並区	(1)号委員	東京大学名誉教授 (建築史学)	再任
7	こやなぎ ひろ ゆき 小柳 博行	国分寺市	(1)号委員	武蔵国分寺史跡地主会会長	再任
8	まつ い とし や 松井 敏也	流山市	(1)号委員	筑波大学芸術系教授 (保存科学)	再任
9	さかづめ ひでいち 坂詰 秀一	国分寺市	(2)号委員	文化財保護審議会会長 立正大学特別栄誉教授 元立正大学学長 (考古学)	再任
10	ふくしま つかさ 福嶋 司	国分寺市	(2)号委員	文化財保護審議会副会長 東京農工大学名誉教授 (植物学)	再任

国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会設置条例第3条第1項第1号＝識見を有する者，第2号＝国分寺市文化財保護審議会委員

定数：10人以内（国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会設置条例）

大型立体地形模型製作業務委託について

- 1 件名 大型立体地形模型製作業務委託
- 2 契約期間 令和6年7月24日～令和7年2月28日
- 3 施工業者 株式会社トリアド工房
- 4 工程

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
模型	試作							
	陶板製作							
	設置							
土台	測量・掘削							
	コンクリ							
パネル	金属枠製作							
	データ作成							
	印刷・設置							



立体模型設置位置（南から）

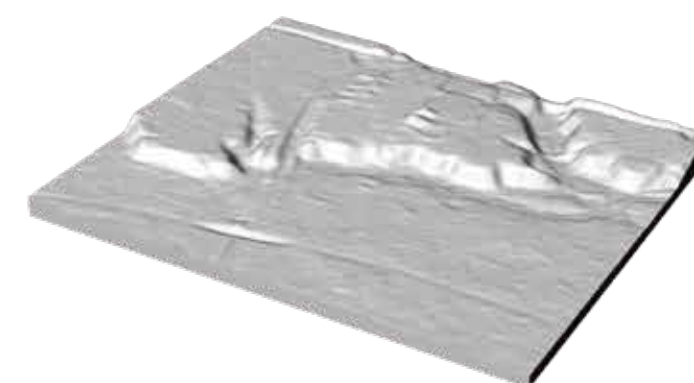
資料 1-2



平面図



縮尺: 1/790
寸法: W2424 × D2020 × H182
(落とし込み50mm)
垂直比: 4.0倍



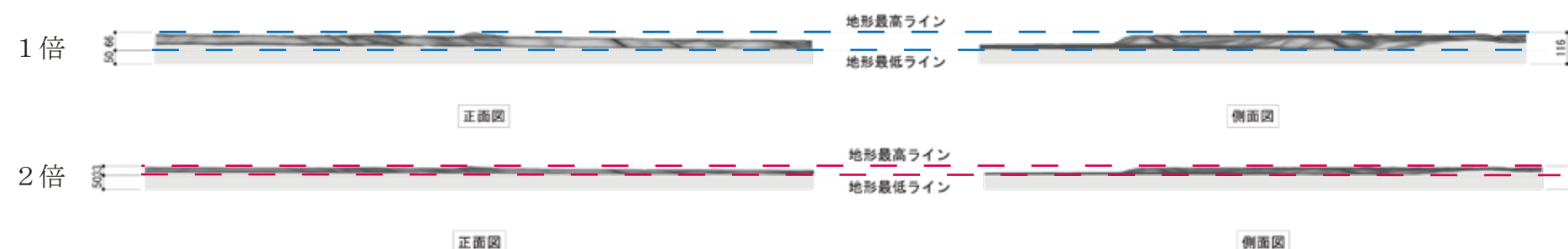
パース図



正面図

側面図

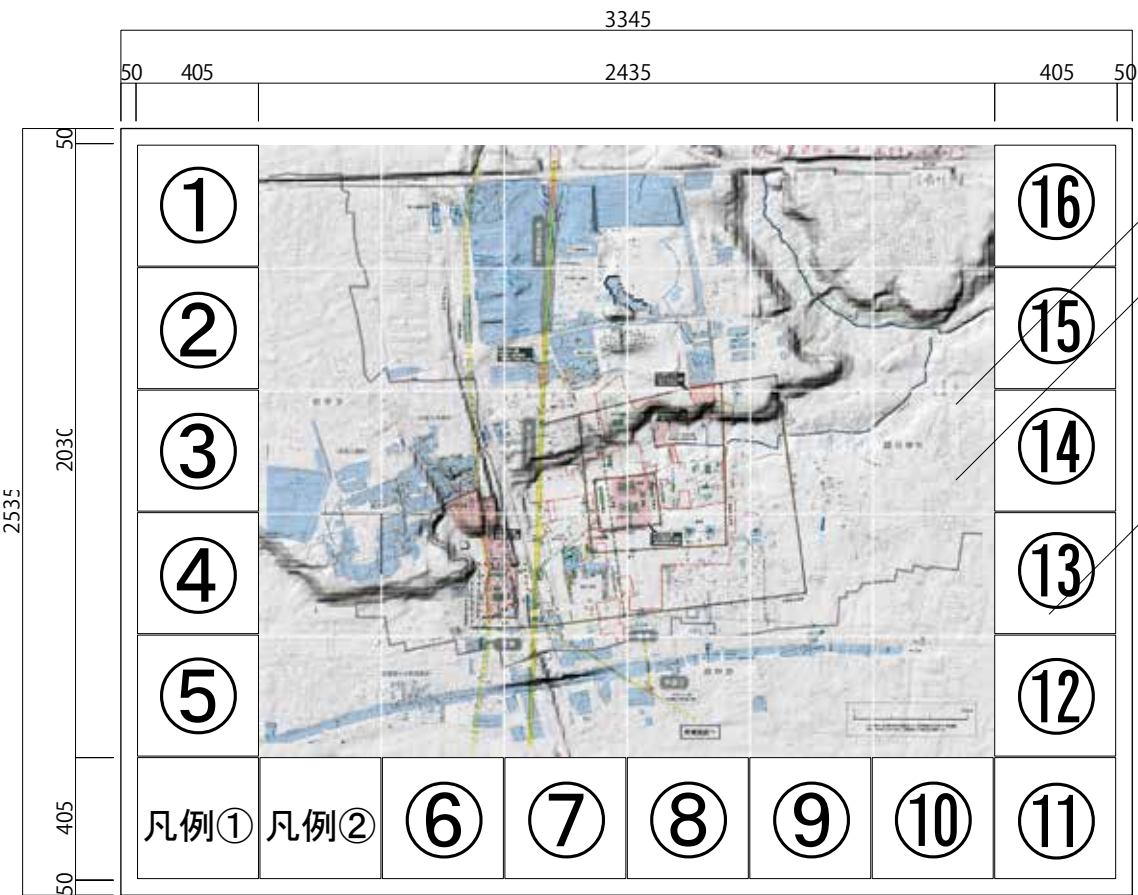
【参考】



正面図

側面図

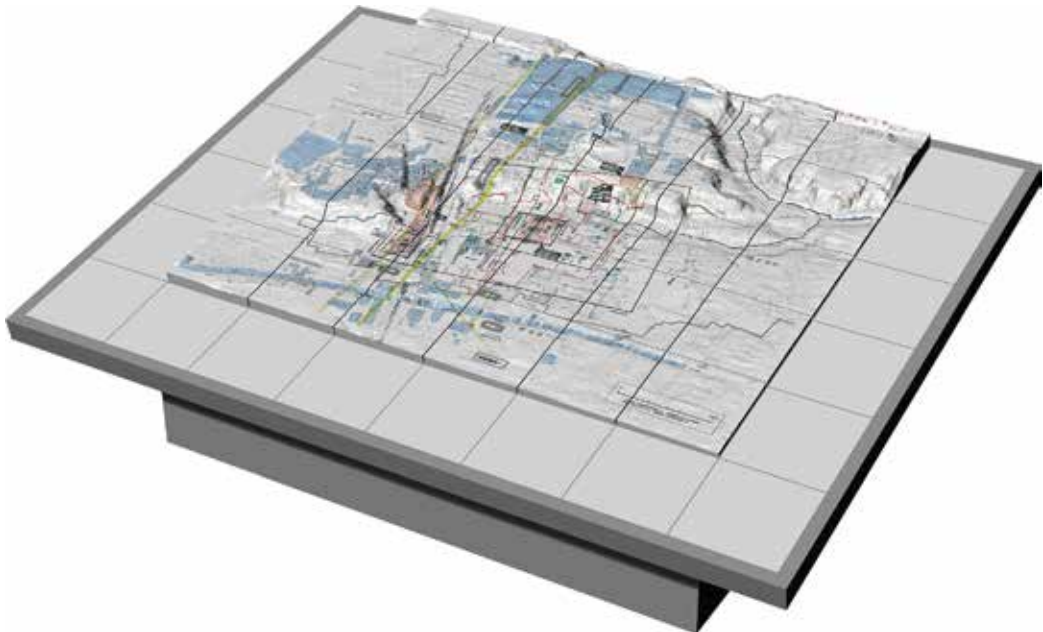
大型立体地形模型 垂直比率（4倍）



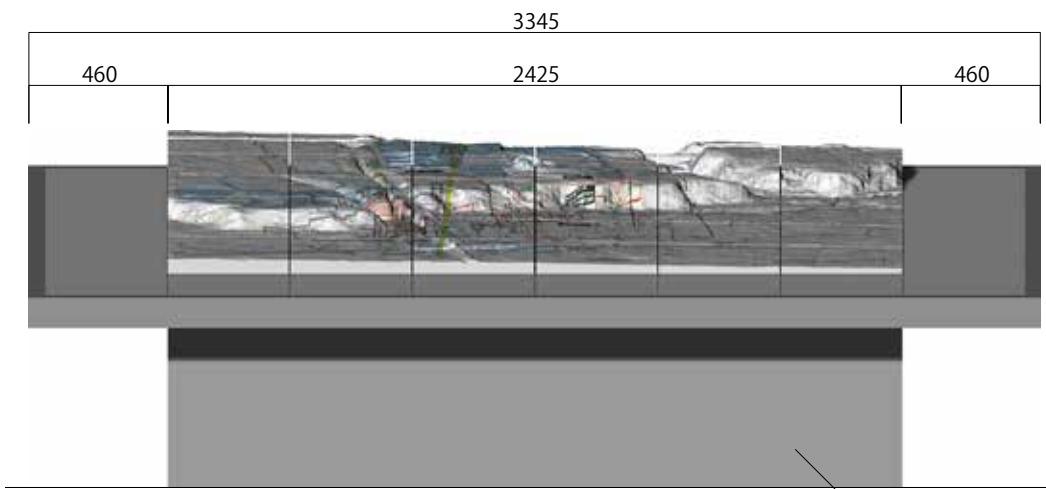
陶板製立体地形模型 400×400mm×10~145(高さ方向4倍)

地図範囲 約1900×1580m

解説板 400×400mm

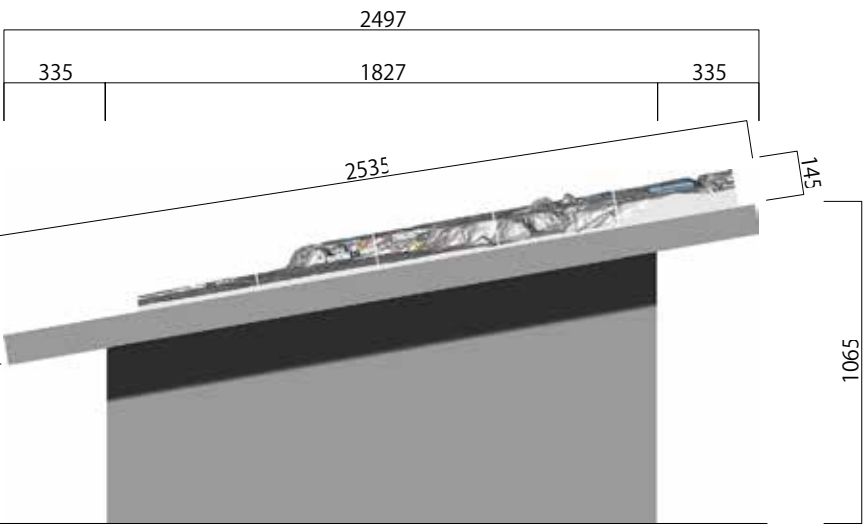
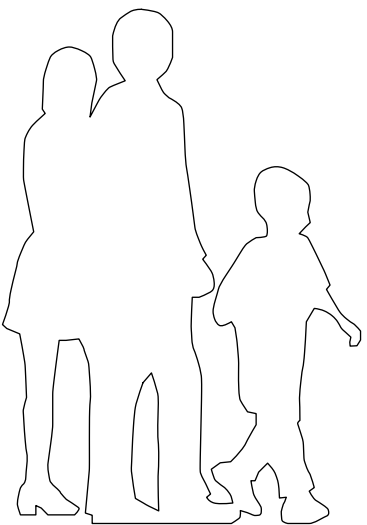


平面図



立面図

架台



側面図

・盤面配置一覧

- | | |
|------------------|-----------|
| ① 参道口 | ⑥⑦ 武蔵国分僧寺 |
| ②③ 伝鎌倉街道・伝祥応寺跡・塚 | ⑧⑨ 武蔵国分尼寺 |
| ④ 国分寺 | ⑩⑪ 東山道武蔵路 |
| ⑤ 国分寺薬師堂 | |

- | |
|---------------|
| ⑫ 文化財資料展示室 |
| ⑬ 武蔵国分寺跡資料館 |
| ⑭ 史跡の駅（おたカフェ） |
| ⑮ 真姿の池湧水群 |
| ⑯ 国分寺崖線（ハケ） |

・模型部分配色希望（8色）

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 道路：グレー | 伝鎌倉街道：紫 |
| 中央本線・武蔵野線：白黒交互（できるか相談中） | 新庁舎・国分寺主要建物：えんじ色 |
| 湧水・野川：水色 | 市域：道路と差別化した黒色 |
| 区画溝：ピンク | 宅地等台地・平地：黄色 |
| 東山道武蔵路：オレンジ | 国分寺崖線：緑色 |

①【国史跡】参道口

現在の府中市には、武蔵国における政治の中心地である「国府」がおかれ、国衙と武蔵国分寺をつなぐ道が存在していました（国府・国分寺連絡路）。平成 11 年（1999）に、府中市栄町所在の都営住宅建設用地で、僧寺中門から南へのびる参道と尼寺方面から南東へと斜行する道とが接する Y 字状の道と門柱状遺構が発見され、国分寺の参道口であることが判明しました。（165 文字）



▲参道口全景



▲整備された万作の木公園

②③【市重要史跡】伝鎌倉街道 / 伝祥応寺跡 / 塚

「鎌倉街道」は、鎌倉時代に幕府が置かれた鎌倉と諸国を結ぶ幹線道路であり、関東各地へ向かう道を上の道、中の道、下の道と呼んでいました。市内では、尼寺跡北方の国分寺崖線を切り通して造られた上道（かみつみち）約 120m を「伝鎌倉街道」の名残として保存しています。また街道を挟んで西側に現本多四丁目に所在する祥應寺の前身にあたる「伝祥応寺跡」が、東側に伝祥応寺に関する修法壇跡と考えられる塚が立地しています。（192 文字）



▲伝鎌倉街道全景（南から）



▲伝祥応寺跡土塁（東から）

④ 国分寺

医王山最勝院国分寺は、真言宗豊山派の寺院です。寺の縁起では「分倍河原の合戦」で焼失した武蔵国分寺は、新田義貞の寄進により薬師堂が再建されたと伝わっています。江戸時代には市内で唯一、国分寺の薬師堂が三代将軍家光から慶安元年（1648）に九石八斗余の寄進を受け、朱印状を下付されました。以後、十四代家茂までの朱印状が残っています。（160 文字）



◀ 国分寺

⑤ 【市重要有形文化財】 国分寺薬師堂

国分寺境内の薬師堂は、建武 2 年（1335）新田義貞の寄進により、武蔵国分寺の金堂付近に建立されたと伝えられています。現在の薬師堂は宝暦年間（1751 ～ 1764）に今の場所に移され、建て替えられたものです。単層寄棟造建物の萱葺屋根でしたが、昭和 60 年（1985）に銅板葺の屋根になりました。正面厨子内には 国指定重要文化財の『木造薬師如来坐像』が安置されており、現在は毎年 10 月 10 日の御開帳法要にて一般公開がされています。（195 文字）



◀ 国分寺薬師堂

⑥⑦【国史跡】武蔵国分僧寺

武蔵国分寺は天平 13 年（741）に、聖武天皇の「国分寺建立の詔」によって全国 60 余りの国に建立された国分寺の一つです。武蔵国では国府（現府中市）に近く、古代官道の東山道から武蔵国へ向かう支路である「東山道武蔵路」沿いの東に僧寺、西に尼寺が計画的に建立されました。武蔵国分寺の伽藍は、元弘 3 年（1333）鎌倉幕府勢と、新田義貞率いる反幕府勢間の分倍河原の合戦の際に焼失したと伝えられており、江戸時代には江戸近郊の名所として知識人の注目を集め、地誌にも紹介されるようになりました。

武蔵国分寺は、諸国の国分寺の中でも最大規模を有し、その歴史的価値の高さから大正 11 年（1922）に国史跡に指定され、市ではその一部を市立歴史公園として整備し、保存と活用に取り組んでいます。（321 文字）



▲武蔵国分僧寺全景（北から）



▲武蔵国分僧寺全景（南から）

⑧⑨【国史跡】武蔵国分尼寺

東山道武蔵路の西側に位置する尼寺は、僧寺と同じく聖武天皇の発布した国分寺建立の詔によって、鎮護国家思想を祈願する官立寺院として建立されました。昭和 39 年（1964）に尼寺中枢部で宅地開発が無断で行われ、緊急の発掘調査を実施し金堂と尼坊が確認されました。これを発端に市では公有化事業と寺域確認調査を進め、伽藍全体の様相が明らかとなりました。

現在は史跡の保存整備を終え、尼寺の主要伽藍の規模や、建立時の基礎工事の様子を見学することができます。掘立柱塀の一部復元や、東門・中門の平面表示、尼坊の礎石復元、推定金堂の基壇復元、基壇の版築観察施設などを整備し、平成 19 年（2007）には「日本の歴史公園 100 選」に選定されました。
(300 文字)



▲整備された武蔵国分尼寺（南から）



▲武蔵国分尼寺全景（南から）

⑩⑪【国史跡】東山道武蔵路

古代日本の律令制に基づいて設置された行政区分において、武蔵国は五畿七道のエリア区分のうち東山道諸国に配属されましたが、上野国と下野国を通る本道から大きく外れた位置にありました。そのため、上野国の新田駅付近から武蔵国府へと南下する支路が存在したことが奈良時代の『続日本紀』に記されており、東山道武蔵路と呼称しています。

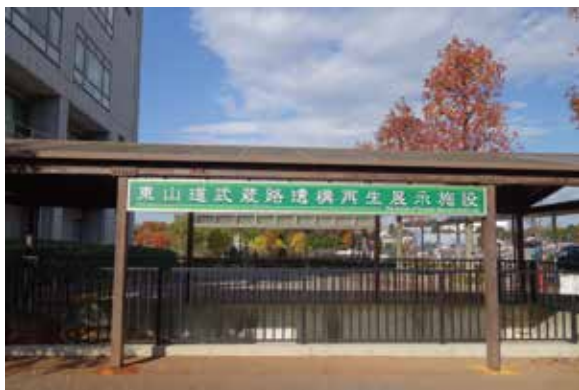
平成7年（1995）、旧国鉄中央鉄道学園跡地である泉町二丁目一帯の発掘調査にて、南北約380mにわたる直線状の道跡が発見されました。現地では地下に遺構を保存しながら、実際に東西両側溝が検出された位置に幅約12mにわたる道路幅を平面表示しているほか、レプリカ展示施設にて遺構を復元しています。（297文字）



▲泉町地区で発見された東山道武蔵路（北から）



▲整備された東山道武蔵路（泉町地区：南から）



▲東山道武蔵路遺構再生展示施設



▲整備された東山道武蔵路（西元町地区：南西から）

⑬ 武蔵国分寺跡資料館（おたかの道湧水園）

おたかの道湧水園は、本多家の屋敷地跡につくられた施設です。園内に残る長屋門と倉の他に、昭和 45 年（1970）頃まで池に面して藁葺屋根の主屋が建ち、主屋と渡り廊下でつながる建物群が存在していました。平成 7 年（1995）に造られた主屋は現在、武蔵国分寺跡資料館として活用し、「見る」・「学ぶ」・「訪ねる」を展示のコンセプトにしています。おもに武蔵国分寺跡の発掘調査で得られた出土品のほか、市内の文化財や史跡整備事業などを展示・紹介しています。（212 文字）



▲旧本多家住宅長屋門（市指定重要有形文化財）



▲武蔵国分寺跡資料館

⑫ 文化財資料展示室

昭和 47 年（1972）、推定寺院地内に市立第四中学校の建設用地を求める決定がなされ、学校建設と遺跡の保存を巡り大きな社会問題となりました。昭和 55 年（1980）に、第四中学校敷地内に開設した「国分寺市文化財資料展示室」では、主に校舎建設に伴う発掘調査で出土した土器や瓦を展示し、市の文化財保護行政の転換点となった経緯を後世に伝える役割を担っています。（167 文字）



▲文化財資料展示室外観



▲文化財資料展示室内観

⑭ 史跡の駅（おたカフェ）

「史跡の駅」は、現在全国に約 1500 か所ある「まちの駅」の一つです。史跡武蔵国分寺跡を訪れる訪問者・散策者のための無料休憩所兼案内所としてつくられました。愛称は「おたかの道」と「カフェ」から「おたカフェ」になり、おたかの道湧水園の入園受付業務や国分寺の名産品、文化財図書などの販売業務のほか、ふるさと文化財愛護ボランティアによる史跡ガイドの受付も行っています。（183 文字）



◀ 史跡の駅（おたカフェ）

⑮【環境省選定名水百選・都名湧水】真姿の池湧水群

武蔵野台地に降り注いだ雨は、大地に染み込みながらろ過され、ローム層下の武蔵野礫層中を地下水となって流れます。国分寺崖線下では、礫層部分の地層がむき出しの状態になっているため、地下水が地表に出て湧水として見るができます。市内では真姿の池湧水群をはじめ、武蔵国分寺跡資料館付近、日立製作所中央研究所から湧水が見られ、これらは野川の源流として国分寺崖線沿いを流れ、最終的に二子玉川にて多摩川に合流します。(201文字)



▲真姿の池湧水群

⑯ 国分寺崖線（ハケ）

国分寺崖線は、古代の多摩川の流れが長い時間をかけて武蔵野台地を削ることで作られた河岸段丘で、立川市から世田谷区まで総延長 20km の距離を野川に沿って続いています。市内では東西に走る崖線によって、南北に 10m 以上の高低差のある段丘に二分されており、南の低地を立川段丘面（標高 65m）、北の高台を武蔵野段丘面（標高 77m）と呼称しています。崖線の谷筋からは現在でも豊かな水が湧き出し、これらの湧水と日当たりの良い台地上を求めて旧石器・縄文時代の人々や、武蔵国分寺を支えた人々の生活拠点となってきました。（243 文字）



▲国分寺崖線遠景（南から）

国史跡 参道口 (万作の木公園)

平成17年(2005)国史跡指定

現在の府中市には、武蔵国における政治の中心地である「国府」がおかれ、国衙と武蔵国分寺を繋ぐ道（国府・国分寺連絡路）が存在していました。

平成11年(1999)、府中市栄町所在の都営住宅建設用地で、僧寺中門から南へ延びる道（参道）と尼寺方面から南東へと斜行する道とが接するY字状の道と門柱状遺構が発見され、国分寺の参道口であることが判明しました。



▲参道口全景



▲整備された万作の木公園

史跡の駅 (おたカフェ)

「史跡の駅」は、現在全国に約1500か所ある「まちの駅」の一つです。トイレのある無料休憩所兼案内所として、訪問者・散策者の多い史跡武蔵国分寺跡につくられました。

愛称は「おたかの道」と「カフェ」から「おたカフェ」になり、おたかの道湧水園の入園受付業務や国分寺の名産品、文化財図書などの販売業務のほか、ふるさと文化財愛護ボランティアによる史跡ガイドの受付も行っています。



▲史跡の駅 (おたカフェ)



▲おたカフェ公式サイト

… 国指定史跡 …

武蔵国分寺跡

附 東山道武蔵路跡

凡 例



区画溝



鎌倉街道



市 境



主要建物



水



国分寺
崖 線



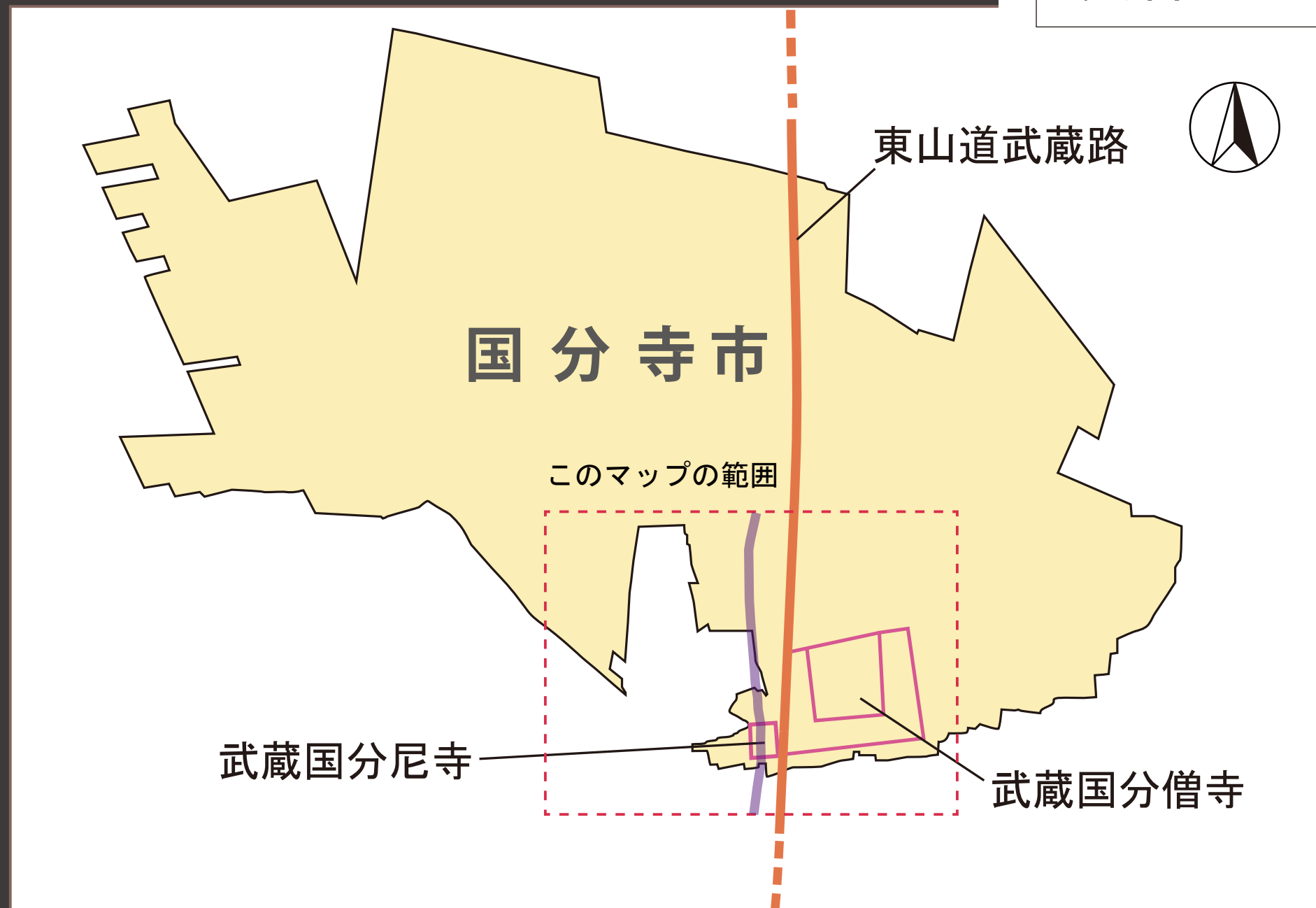
東山道
武蔵路



道 路



市街地



★ 現在位置

① 参道口

②③ 伝鎌倉街道・
伝祥応寺跡・塚

④ 国分寺

⑤ 国分寺薬師堂

⑥⑦ 武蔵国分僧寺

⑧⑨ 武蔵国分尼寺

⑩⑪ 東山道武蔵路

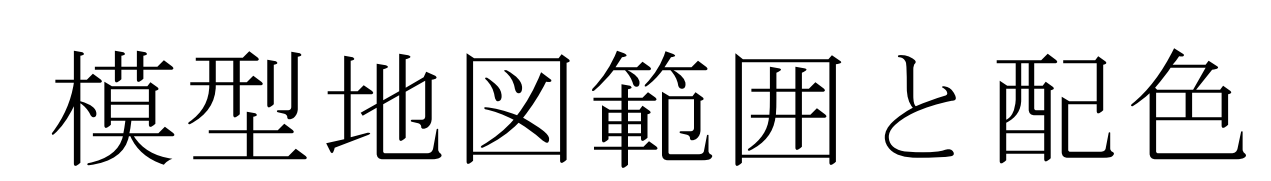
⑫ 文化財資料展示室

⑬ 武蔵国分寺跡資料館

⑭ 史跡の駅（おたカフェ）

⑮ 真姿の池湧水群

⑯ 国分寺崖線（ハケ）



令和7年度工事予定地区の整備について

- 1 工事予定地区
史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事（中枢部周辺地区〔南門地区〕）
第二工区その4
- 2 範囲
中門東範囲 約 1,939 m²
南東範囲 約 6,140 m²
南西範囲 約 1,033 m² 計 9,112 m²
- 3 方針
中門東範囲…連続した中枢部区画施設（築地塀・区画溝）を表示
南東範囲…活用しやすいダスト舗装を中心とし、植栽等を施す
南西範囲…車通からも視認できるよう、史跡地への動線を整備する



中門東範囲（東から）



南東範囲（北西から）



南西範囲（南西から）



南西範囲（北西から）

南門地区の実施設計(令和4～7年度)

完了 令和4年度
南門地区 樹木の修景工事
(第2工区 その1)

令和7年度 工事地区

第2工区 その4

完了

令和5年度
南門地区(第2工区 その2)

令和6年度 工事地区

第2工区 その3

令和7年度 工事地区

第2工区 その4

第四中学校



大型地形模型



名称標識



木橋



四阿(あずまや)



※写真はイメージです。

中門東範囲



S=1:400

伐採予定樹木一覧

表示番号	樹木名	状態	備考
1	ソメイヨシノ	×	
2	ヤマザクラ	△	残してもよいが、ケアが必要
3	ヤマザクラ	×	枯れている
4	ヤマザクラ	×	曲がりすぎている
5	トウカエデ	×	健全 中国産
6	ソメイヨシノ	×	
7	ソメイヨシノ	×	回り残すなら要らない
8	ソメイヨシノ	×	本数多い小枝くさり
9	ソメイヨシノ	○	切ったところケアが必要
10	ソメイヨシノ	×	腐っている
11	ソメイヨシノ	×	腐っている
12	ソメイヨシノ	○	問題なし

築地堀内側の溝
遺構表示

西元町三丁目

築地堀遺構表示

ケヤキ
(既存)

ソメイヨシノ
(既存)

ヤマザクラ
(既存)

街灯 (既存)

既存樹木
(伐採)

エノキ (既存)

エノキ (既存)

中枢部区画溝
遺構表示

柵
t=300

築地堀堀外側の溝
遺構表示

広場

南西範囲

S=1:400

浸透トレンチ
355m2(W=2.0m)

擁壁
イヌマキ
(生垣)

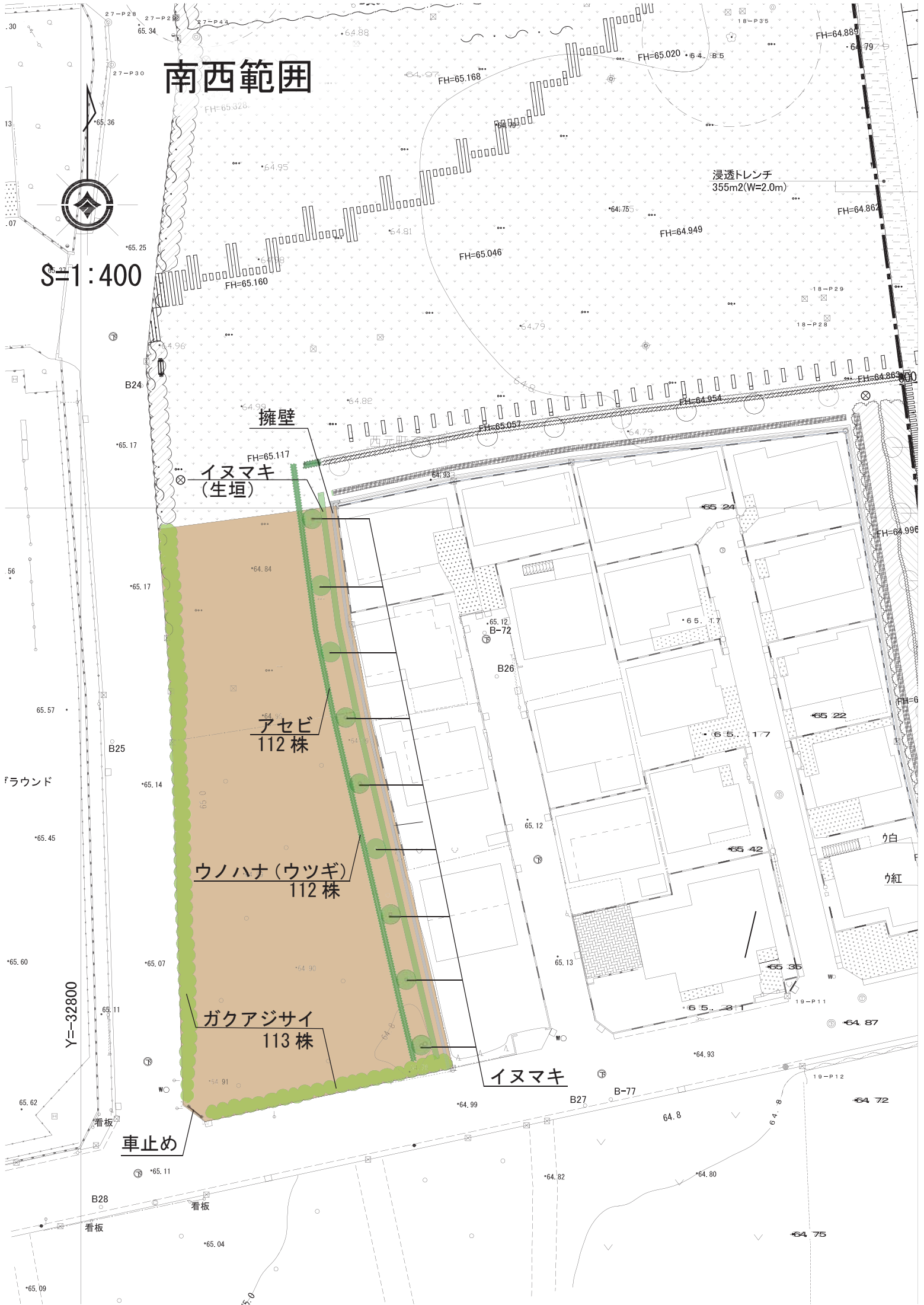
アセビ
112株

ウノハナ(ウツギ)
112株

ガクアジサイ
113株

イヌマキ

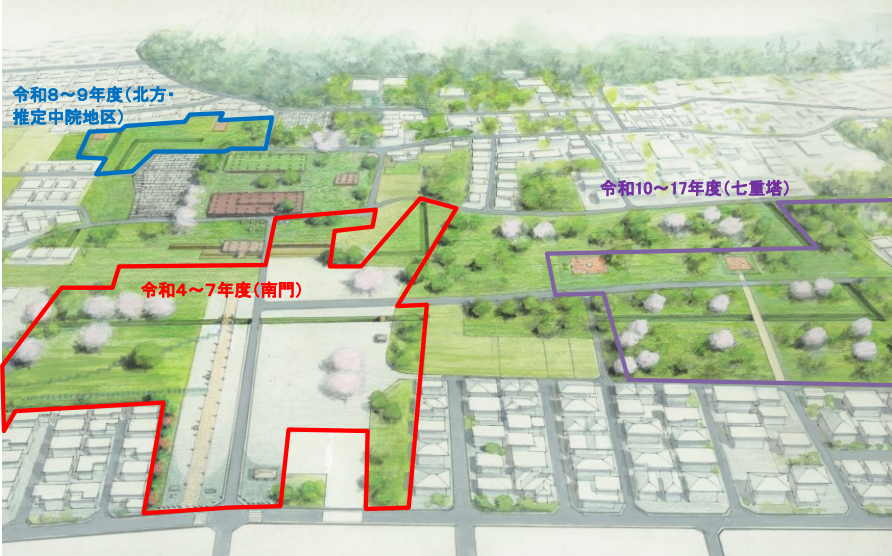
車止め



史跡保存整備事業計画

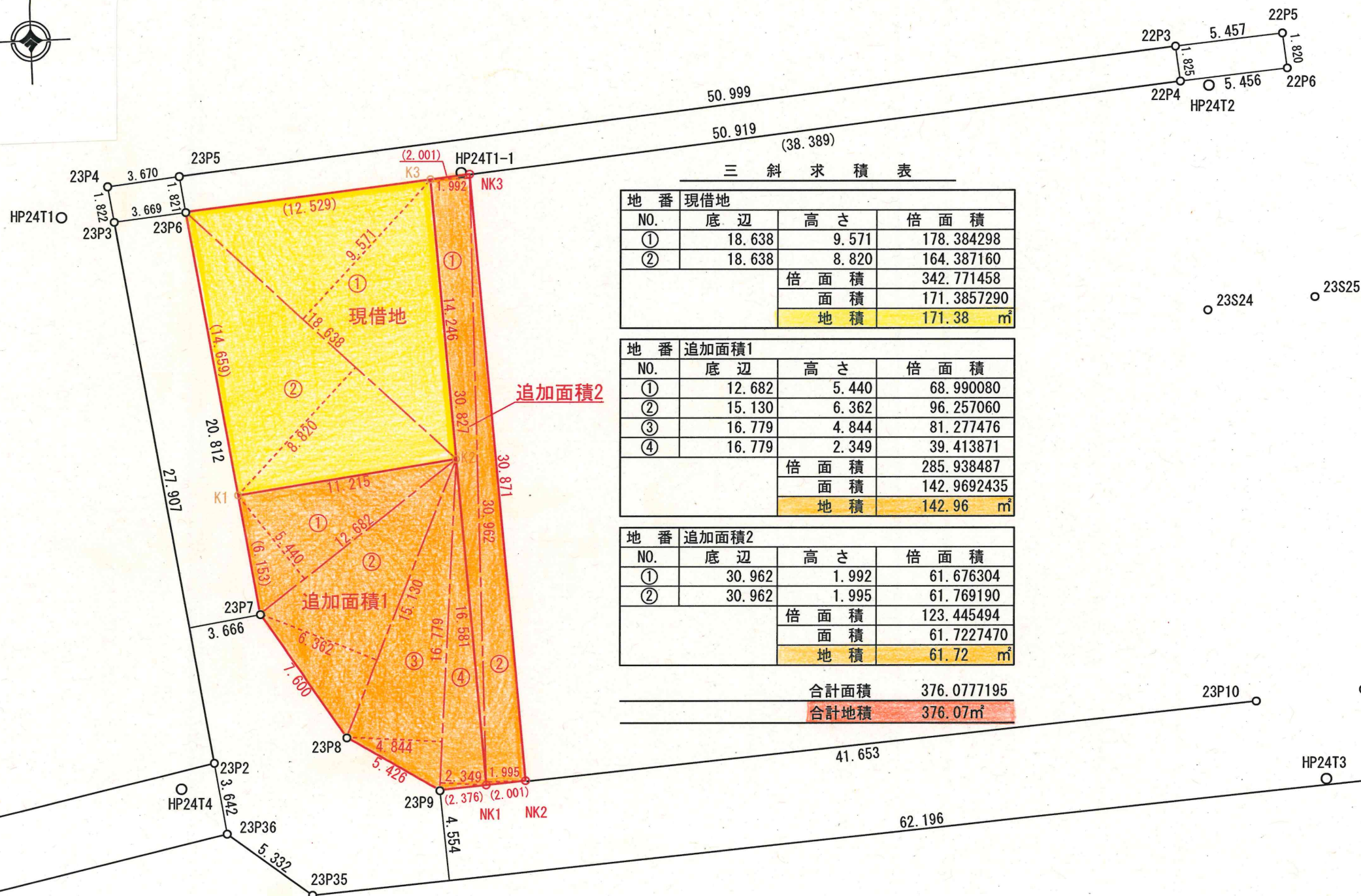
資料 3

		第一期整備(整備実施計画で謳う整備内容)																														第二期整備	令和6年8月21日現在							
年次	和暦 西暦	平成14 2002	15 2003	16 2004	17 2005	18 2006	19 2007	20 2008	21 2009	22 2010	23 2011	24 2012	25 2013	26 2014	27 2015	28 2016	29 2017	30 2018	令和元 2019	2 2020	3 2021	4 2022	5 2023	6 2024	7 2025	8 2026	9 2027	10 2028	11 2029	12 2030	13 2031	14 2032	15 2033	16 2034	17 2035	18 2036	19 2037	20 2038	備考	
計画		新整備 基本計画					史跡公園 面分等跡 周辺まちづ くり計画	整備 実施計画											基本設計																	整備実施計画2 検討・策定 (第二期整備)				
事前連携 確認調査	発掘調査		第1期調査(如庭中庭地区・塔地区・南門地区)												第1期調査整理作業																						第2期調査		【第一期整備の終了】 平成21年策定の整備実 施計画で謳う整備内容が 完了する。 現公有地内でできる平面 整備を優先。	
	出土品整理																																							
	調査報告書																																							
測量 設計	測量																		地形測量																					
	基本設計																			中庭部 周辺地区																				
	実施設計																			中門東地区 南門地区	北方地区 南門地区																			
整備工事	地区																																							
	工事監理																																							
	主な内容																																							
	事業総括 報告書																																							
その他	電柱																																							
	その他																																							



国分寺市西元町一丁目1604番1内 測量図

縮尺250分之1



三 斜 求 積 表

地 番	現借地		
NO.	底 辺	高 さ	倍 面 積
①	18.638	9.571	178.384298
②	18.638	8.820	164.387160
		倍 面 積	342.771458
		面 積	171.3857290
		地 積	171.38 m ²

地 番	追加面積1		
NO.	底 辺	高 さ	倍 面 積
①	12.682	5.440	68.990080
②	15.130	6.362	96.257060
③	16.779	4.844	81.277476
④	16.779	2.349	39.413871
		倍 面 積	285.938487
		面 積	142.9692435
		地 積	142.96 m ²

地 番	追加面積2		
NO.	底 辺	高 さ	倍 面 積
①	30.962	1.992	61.676304
②	30.962	1.995	61.769190
		倍 面 積	123.445494
		面 積	61.7227470
		地 積	61.72 m ²

合計面積 376.0777195

合計地積 376.07m²

おたかの道湧水園の今後の在り方について

現在建築中の新庁舎は、令和 7 年 1 月 6 日から供用開始となり、このことに伴い、ふるさと文化財課執務室も、新庁舎へ移転予定です。

このため、ふるさと文化財課が新庁舎移転後も、武蔵国分寺跡資料館を含む史跡地及びおたかの道湧水園を安定的に管理・運営していくこと、また、より史跡武蔵国分寺跡の魅力を来訪者へ周知することを主な目的として「一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会」がふるさと文化財課移転後の執務室に移転することを検討しております。

今後ふるさと文化財課は、武蔵国分寺跡を地域の貴重な観光資源として最大限に活用し、より史跡地来訪者が史跡地に親しみを持ち、歴史的理解を深められるよう、こくぶんじ観光まちづくり協会と協力し事業を推進してまいります。

1 執務室の概要

- ▶現執務室面積 約 60 m²
- ▶移転後の使用面積
 - ①こくぶんじ観光まちづくり協会使用予定面積 約 25 m²(約 6 人分)
 - ②多目的スペース 約 20 m²
(柱、台所、通路スペース等計約 15 m²を除く)

2 移転後の業務運営の在り方

①スケールメリットを活かした史跡地及びおたかの道湧水園（武蔵国分寺跡資料館含む）の運営

こくぶんじ観光まちづくり協会は、最も史跡地近くに勤務する者として、史跡地内の緊急対応、史跡地及びおたかの道湧水園の簡易的な管理、来訪者からの問い合わせ等に関わっていただき、ふるさと文化財課職員の移転に伴うマンパワー不足を補う。

②史跡ガイドステーションの設置

多目的スペースを活用し、来訪者と史跡ガイドボランティアをマッチングさせるガイドステーションを設け、こくぶんじ観光まちづくり協会は積極的にガイドのあっせんを行う。また、多目的スペースは、ガイド開始前のオリエンテーションや、各ガイド間の情報共有等の場として活用する。

③恒常的な文化財普及活動の実施

これまで野外で行っている文化財普及活動を、多目的スペースで実施し、天候（猛暑や雨天）に左右されない安全かつ安定的な文化財普及活動を行っていく。また、こくぶんじ観光まちづくり協会が主体となる新たな文化財普及活動を検討・実施する。

④来訪者の自主学習支援及びレファレンス対応

来訪者の自主学習及びレファレンスコーナーとして多目的スペースを活用する。こくぶんじ観光まちづくり協会は要望に応じ簡易的な解説をする他、ガイドボランティアやふるさと文化財職員に繋げる対応を行う。

